The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	前田富祺教授略歴・論著目録
Author(s)	
Citation	語文. 2001, 75-76, p. 116-132
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68983
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

前田富祺教授略歴

昭和一二年八月二六日　北海道下富良野町（現在の富良野市）に生まれる。

〈学　歴〉

昭和二五年三月　富良野小学校卒業。
昭和二八年三月　富良野東中学校卒業。
昭和三一年三月　富良野高等学校卒業。
昭和三五年三月　東北大学文学部卒業。
昭和三七年三月　東北大学大学院文学研究科国語学専攻修士課程修了。
昭和四〇年三月　東北大学大学院文学研究科国語学専攻博士課程単位取得退学。
昭和六一年六月　文学博士の学位を大阪大学より授与される。

〈職　歴〉

昭和四〇年四月　宮城学院女子大学講師。
昭和四三年六月　宮城学院女子大学助教授。
昭和四五年四月　東北大学教養部助教授。
昭和四九年四月　東北大学文学部助教授併任。
昭和五二年四月　大阪大学文学部助教授。
昭和六二年四月　大阪大学文学部教授。
平成一一年四月　大阪大学大学院文学研究科教授。
平成一三年三月　大阪大学停年退職。

非常勤講師歴

宮城教育大学、岩手大学、弘前大学、新潟大学、東北工業大学、信州大学、金沢大学、島根大学、立命館大学、大阪女子大学、大阪樟蔭女子大学、甲南女子大学、関西学院大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学、等。

所属学会等

国語学会理事（平成六～一二年）・評議員、国語語彙史研究会代表幹事、日本言語学会、日本文芸研究会委員、全国大学国語国文学会評議員、国語審議会委員（第二一・二二期）、新村出記念財団評議員、金田一京助博士記念会選考委員。

前田富祺教授論著目録

〈著書〉

『国語史要説』（佐藤喜代治と共著）　昭和五二年八月　朝倉書店

『国語学研究法』（北原保雄・徳川宗賢・野村雅昭・山口佳紀と共著）　昭和五三年二月　武蔵野書院

『幼児の語彙発達の研究』（前田紀代子と共著）　昭和五八年一二月　武蔵野書院

『国語語彙史研究』　昭和六〇年一〇月　明治書院

『叢書・ことばの世界　方言に生きる古語』（加藤正信・佐藤武義と共著）　昭和六三年八月　南雲堂

＊新装普及版『日本の方言と古語』（平成八年四月、南雲堂）

『幼児語彙の統合的発達の研究』（前田紀代子と共著）　平成八年五月　武蔵野書院

〈編著書〉

『国語学要説』（佐藤喜代治編、佐藤喜代治・蜂谷清人・加藤正信・飛田良文・佐藤宣男・鈴木丹士郎と共著）　昭和四一年五月　朝倉書店

＊改訂版『新版　国語学要説』（昭和四八年三月、朝倉書店）

『国語史（上）』（佐藤喜代治編、佐藤喜代治・佐藤宣男・佐藤武義と共著）　昭和四五年五月　桜楓社

『国語表現法』（佐藤喜代治編、佐藤喜代治・蒲生芳郎・加藤正信と共著）　昭和四六年三月　朝倉書店

『国語学研究事典』（佐藤喜代治編、編集委員）　昭和五二年一一月　明治書院

『国語語彙史の研究』一～二〇（国語語彙史研究会編、編集委員）　昭和五五年五月～平成一三年三月　和泉書院（続刊中）

『講座日本語の語彙』全一一巻・別巻（佐藤喜代治編、編集委員）　昭和五六年一一月～　明治書院

『国語論究』第一集～第八集（佐藤喜代治編、編集委員）　昭和五八年一一月
『角川古語大辞典』第三巻～第五巻（中村幸彦・岡見正雄・阪倉篤義編、編集委員）　昭和六一年五月～平成一二年一一月　角川書店
『鷗外の語法』（山鳥鋭男著、編集を担当、解説を附す）　昭和六二年九月～平成一一年三月　和泉書院
『漢字講座』全一二巻（佐藤喜代治編、編集委員）　昭和六二年一〇月　明治書院
『日本語百科大事典』（金田一春彦・林大・柴田武編集責任、編者）　昭和六三年五月　大修館書店
『国語文字史の研究』一～五　平成四年九月～平成一二年五月　和泉書院（続刊中）
『漢字百科大事典』（編集委員）　平成八年一月　明治書院
『日本国語大辞典 第二版』全一三巻（編集委員）　平成一二年一二月～　小学館（刊行中）

〈論文〉

契沖のアクセント観　昭和三七年四月　『文芸研究』第四〇集
秋田県米代川流域の言語調査報告（アクセント）　昭和三八年三月　『日本文化研究所研究報告』別巻一
ヒネモスの語形変化　昭和三八年六月　『国語学研究』第三集
ハグクムとハゴクム　昭和三九年六月　『文芸研究』第四七集
イロコとイロクヅ――その語形と語義――　昭和四〇年六月　『国語学』第六一集
能楽論におけるアクセント観　昭和四〇年八月　『国語学研究』第五集
岩手県三陸地方北部の言語調査報告（語彙）　昭和四一年三月　『日本文化研究所研究報告』別巻四
「奥の細道」の漢字　昭和四一年七月　『宮城学院女子大学研究論文集』二八号
古代における国語アクセント観　昭和四一年一〇月　『国語学研究』第六集
「延徳本倭玉篇」について　昭和四二年二月　『山田孝雄追憶 本邦辞書史論叢』（山田忠雄

世尊寺本字鏡の成立
——「新撰字鏡」と「類聚名義抄」との比較において——　昭和四二年二月　『山田孝雄追憶　本邦辞書史論叢』（山田忠雄編、三省堂）
「坊っちゃん」の漢字　昭和四二年二月　『日本文学ノート』第二号
アイウエオとイロハの歴史　昭和四二年四月　『言語生活』第一八七号
指のよび方について　昭和四二年七月　『文芸研究』第五六集
＊『日本の言語学　第五巻　意味・語彙』（川本茂雄・国広哲弥・林大編、大修館書店、昭和五四年一月）に再録
近世における国語アクセント観　昭和四二年一二月　『国語学』第七一集
＊『論集日本語研究　一四　近世語』（鈴木丹士郎編、有精堂、昭和六〇年四月）に再録
個別的な語史研究から体系的な語史研究へ　昭和四三年一月　『文化』第三一巻第三号
蝙蝠の語史　昭和四三年二月　『日本文学ノート』第三号
モグラの語史（上）　昭和四四年二月　『日本文学ノート』第四号
モグラの語史（中）承前　昭和四四年三月　『基督教文化研究所研究年報』第二号
奈良時代絵因果経の字体について　昭和四四年四月　『日本絵巻物全集　第一六巻　絵因果経』（角川書店）
＊『新修日本絵巻物全集　第一巻　絵因果経』（角川書店、昭和五二年三月）に補記を加えたかたちで再録
慶長三年耶蘇会板落葉集の漢字について　昭和四四年九月　『国文学　言語と文芸』第六六号
語彙研究資料としての節用集　昭和四四年九月　『宮城学院女子大学研究論文集』三四号
「高瀬舟」に見られる語彙とその表記について　昭和四四年九月　『宮城学院女子大学研究論文集』三四号
「高瀬舟」用語索引　昭和四五年三月　『宮城学院女子大学研究論文集』三五号
「最後の一句」に見られる語彙とその表記について　昭和四五年三月　『宮城学院女子大学研究論文集』三五号
「最後の一句」用語索引（責任編集）　昭和四五年三月　『日本文学ノート』第五号
モグラの語史（中）承前　昭和四五年八月　『方言研究の問題点』（明治書院）
アクセント史研究と方言アクセント研究　昭和四五年一一月　『文法』第三巻第一号
上代の音韻の考察　昭和四五年一二月　『基督教文化研究所研究年報』第三〜四号
中世におけるイエズス会宣教師の日本語観

仮名文における文字使用について——変体仮名と漢字使用の実態——	昭和四六年三月	『東北大学教養部紀要』第一四号
古代の文体	昭和四七年二月	『講座国語史 第六巻 文体史・言語生活史』（佐藤喜代治編、大修館書店）
女性の言語生活史	昭和四八年七月	『言語生活』第二六二号
語彙の体系について	昭和四九年三月	『東北大学教養部紀要』第一九号
言語地図は語史を語る	昭和四九年一一月	『言語生活』第二七八号
説話文学の翻訳と翻案	昭和四九年一一月	『日本の説話 第七巻 言葉と表現』（山田俊雄・馬渕和夫編、東京美術）
幼児の語彙の発達——人のよび方を中心として——	昭和五〇年三月	『国語学研究』第一四集
語彙に体系はあるか	昭和五〇年四月	『新・日本語講座 一 現代日本語の単語と文字』（岩淵悦太郎・西尾寅弥編、汐文社）
言葉からみた日本人の食生活史	昭和五〇年七月	『言語生活』第二八六号
生活の変化と語彙の消長	昭和五〇年一一月	『新・日本語講座 四 日本語の歴史』（岩淵悦太郎・飛田良文編、汐文社）
古代における国語語彙観——国語語彙論史序説として——	昭和五一年二月	『東北大学教養部紀要』第二三号
〝手の甲〟のよび方について	昭和五一年五月	『大坪併治教授退官記念 国語史論集』（表現社）
身体語彙史序説	昭和五一年六月	『佐藤喜代治教授退官記念 国語学論集』（桜楓社）
近世における国語語彙観	昭和五二年二月	『東北大学教養部紀要』第二五号
上代の文章活動	昭和五二年五月	『現代作文講座 八 文章活動の歩み』（林大・林四郎・森岡健二編、明治書院）
語彙の変遷	昭和五二年六月	『岩波講座日本語 九 語彙と意味』（岩波書店）

衣の生活語彙史　昭和五二年一一月　『言語生活』第三一四号
平安時代の語彙――手から肩までの呼び方をめぐって――　昭和五三年三月　『国語学』第一一二集
軍記物語における武装描写の語彙――衣生活語彙史序説として――　昭和五三年五月　『国語と国文学』第五五巻第五号
日本列島ことばの旅　昭和五四年八月　『言語』第八巻第八号
上代における手から肩までの呼び方をめぐって　昭和五四年一〇月　『語文』第三六輯
言語地理学から国語史へのアプローチ――踵の呼び方をめぐって――　昭和五四年一二月　『国語学』第一一九集
日本の百科事典――歴史と発展　昭和五五年四月　『国語科通信』第四三号
辞書との出会い――辞書をえらぶコツ・使うコツ――　昭和五五年五月　『言語』第九巻第五号
国語語彙史研究の課題　昭和五五年五月　『国語語彙史の研究』一（和泉書院）
〝足の甲〟と〝足の裏〟の呼び方について　昭和五五年一〇月　『佐藤茂教授退官記念　論集国語学』（桜楓社）
古代貴族の敬語　昭和五六年一月　『国文学　解釈と教材の研究』第二六巻第二号　一月臨時増刊号『敬語の手帖』
中世における象徴詞の一考察――〝くる〜〟系・〝くるり〜〟系の語彙をめぐって――　昭和五六年四月　『語文』第三八輯
数詞語彙史をめぐって　昭和五六年五月　『国語語彙史の研究』二（和泉書院）
テーマの設定と資料の集め方（特集　論文・レポートの書き方）　昭和五六年七月　『言語』第一〇巻第七号
和語の意味変化　昭和五七年一月　『講座日本語学　四　語彙史』（森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明編、明治書院）
〝めくばせ〟の語誌　昭和五七年五月　『国語語彙史の研究』三（和泉書院）
語彙史の時代区分　昭和五七年五月　『講座日本語の語彙　第三巻　古代の語彙』（佐藤喜代治編、明治書院）
語彙　昭和五七年七月　『講座日本語の語彙　第一巻　語彙原論』（佐藤喜代治編、明治書院）
語の変化　昭和五七年七月　『講座日本語の語彙　第一巻　語彙原論』（佐藤

『倭字古今通例全書』の時代的意義　昭和五七年九月　『国語学史論叢』（竹岡正夫編、笠間書院）
意味の変化――「かたづける」を中心として――　昭和五七年一一月　『日本語学』第一巻第一号
近世にはどんな仮名遣いが行われていたか　昭和五七年一二月　『国文学 解釈と教材の研究』第二七巻第一六号
昇子（ぞそりこ）とは何ぞ　昭和五八年一月　『天理図書館善本叢書』月報五三
「えぞ」「かじかむ」「かたる」　昭和五八年一月　『講座日本語の語彙 第九巻 語誌Ⅰ』（佐藤喜代治編、明治書院）
「すもう」　昭和五八年四月　『講座日本語の語彙 第一〇巻 語誌Ⅱ』（佐藤喜代治編、明治書院）
漢語副詞の変遷　昭和五八年五月　『国語語彙史の研究』四（和泉書院）
芥川龍之介『羅生門』・『鼻』本文と総索引（李漢燮と共著）　昭和五八年五月　『国語語彙史の研究』四（和泉書院）
「できる」「でしゃばる」「はしる」「はたらく」「へつらう」「わらべ」　昭和五八年六月　『講座日本語の語彙 第一一巻 語誌Ⅲ』（佐藤喜代治編、明治書院）
言語行動史の可能性　昭和五八年七月　『日本語学』第二巻第七号
漢語副詞の種々相　昭和五八年一〇月　『副用語の研究』（渡辺実編、明治書院）
ことばのニュアンス　昭和五九年二月　『講座日本語の表現 二 日本語の働き』（野村雅昭編、筑摩書房）
女性の歴史とことば　昭和五九年三月　『言語生活』第三八七号
国語史からみた方言の歴史　昭和五九年五月　『国文学 解釈と鑑賞』第四九巻第七号五月臨時増刊号『新しい方言研究』
語義変化と意味関係　昭和五九年五月　『国語語彙史の研究』五（和泉書院）
方言における語彙・意味の研究　昭和五九年六月　『現代方言学の課題 第三巻 史的研究篇』（明治書院）
語種構造の漸移相　昭和五九年九月　『日本語学』第三巻第九号

敬語の諸問題　昭和五九年九月　『研究資料日本文法　第九巻　敬語法編』（明治書院）

中世文学と数詞　昭和五九年一一月　『武蔵野文学』第三二集

語彙教育の基礎　昭和六〇年三月　『応用言語学講座　第一巻　日本語の教育』（林四郎編、明治書院）

中世語彙の体系――御伽草子における衣生活語彙を中心に――　昭和六〇年五月　『日本語学』第四巻第五号

「かぶる」ことの言語文化史　昭和六〇年六月　『季刊自然と文化』一九八五夏季号

あいさつ言葉の歴史　昭和六〇年八月　『日本語学』第四巻第八号

『栄花物語』における女房装束の語彙をめぐって　昭和六〇年一〇月　『国語語彙史の研究』六（和泉書院）

食物と言葉　昭和六一年一月　『大阪大学文学部共同研究論集　第三輯　日本語・日本文化研究論集』

＊『シリーズ「日本を考える」一　言葉と文化』（日本語・日本文化研究会、凡人社、昭和六一年六月）所収

語彙資料の扱い方　昭和六一年五月　『国語論究　第一集　語彙の研究』（佐藤喜代治編、明治書院）

『増補下学集』の増補語彙について続貂　昭和六一年五月　『国語史学の為に　第二部　古辞書』（山田忠雄編、笠間書院）

古典の中の数詞・助数詞　昭和六一年八月　『日本語学』第五巻第八号

語彙史と語源研究　昭和六一年九月　『語源探求』（明治書院）

西鶴における衣裳描写の語彙をめぐって　昭和六一年一一月　『論集日本語研究（二）歴史編』（宮地裕編、明治書院）

上代における住生活語彙をめぐって　昭和六一年一二月　『国語語彙史の研究』七（和泉書院）

古語と近代語　昭和六二年四月　『日本語学』第六巻第四号

春水における衣裳描写の語彙をめぐって　昭和六二年一一月　『国語語彙史の研究』八（和泉書院）

日本人の音声認識の歴史　昭和六二年一二月　『言語生活』第四三三号

川柳の漢字　昭和六二年一二月　『漢字講座　第七巻　近世の漢字とことば』（佐

国語文字史の可能性　昭和六二年三月　藤喜代治編、明治書院）

川柳の仮名――国語字体史の視点から――　昭和六三年三月　『甲南国文』第三五号

ことばの生命　昭和六三年五月　『大阪大学文学部共同研究論集　第四輯　日本語・日本文化研究論集』

語彙の歴史　昭和六三年五月　『言語』第一七巻第五号

語源の探求　昭和六三年五月　『日本語百科大事典』（金田一春彦・林大・柴田武編集責任、大修館書店）

現代世界文字一覧　昭和六三年五月　『日本語百科大事典』（金田一春彦・林大・柴田武編集責任、大修館書店）

中国・日本対照文字年表（高山善行と共著）　昭和六三年五月　『漢字講座　第一巻　漢字とは』（佐藤喜代治編、明治書院）

記録の漢字　昭和六三年七月　『漢字講座　第一巻　漢字とは』（佐藤喜代治編、明治書院）

武士言葉の世界――位相から見た軍記物語の語彙――　昭和六三年九月　『漢字講座　第五巻　古代の漢字とことば』（佐藤喜代治編、明治書院）

文献国語史と方言――接辞を中心として見た――　昭和六三年一〇月　『国語学』第一五四集

『栄花物語』における〝唐衣〟の描写をめぐって　昭和六三年一一月　『方言研究年報』第三〇巻（和泉書院）

古代日本語と敬語表現――飛鳥奈良期の場合　昭和六三年一二月　『国語語彙史の研究』九（和泉書院）

計量語彙論と国語語彙史研究　昭和六三年一二月　『国文学　解釈と教材の研究』第三三巻第一五号増刊号『敬語セミナA―Z――古典敬語セミナ　古典を読むために』

『東大寺諷誦文稿』の片仮名の字体について　平成元年六月　『待兼山論叢』第二二号文学篇

『東大寺諷誦文稿』の片仮名の体系――片仮名字体史序説として――　平成元年六月　『語文』第五二輯

『奥村三雄教授退官記念　国語学論叢』（桜楓社）

日本語研究資料としての辞書　平成元年七月　『日本語学』第八巻第七号
漢字研究史　平成元年八月　『漢字講座 第二巻 漢字研究の歩み』(佐藤喜代治編、明治書院)
古代・中世の漢字研究　平成元年八月　『漢字講座 第二巻 漢字研究の歩み』(佐藤喜代治編、明治書院)
中国・日本字書史年表（李漢燮と共著）　平成元年八月　『漢字講座 第二巻 漢字研究の歩み』(佐藤喜代治編、明治書院)
梵語の音訳漢字一覧　平成元年八月　『漢字講座 第二巻 漢字研究の歩み』(佐藤喜代治編、明治書院)
語彙総論　平成元年八月　『講座日本語と日本語教育 六 日本語の語彙・意味(上)』(玉村文郎編、明治書院)
日本語の歴史　語彙　平成元年九月　『言語学大辞典』第二巻（亀井孝・河野六郎・千野栄一編著、三省堂）

＊『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』（亀井孝・河野六郎・千野栄一編著、三省堂、平成九年一月）に再録

文化としての語彙　平成元年一二月　『国語語彙史の研究』一〇（和泉書院）
『極楽願往生歌』の片仮名の体系　平成二年三月　『語文』第五三・五四輯
語彙論――国語語彙論の確立と展開――　平成二年五月　『国語と国文学』第六七巻第五号
連合的意味と統合的意味の間　平成二年六月　『文法と意味の間――国広哲弥教授還暦退官記念論文集――』（くろしお出版）
日本における漢字研究の歴史　平成二年九月　『書道研究』第四巻第九号
語彙から見た文体と文字から見た文体　平成二年一二月　『国語語彙史の研究』一一（和泉書院）
『金色夜叉』の衣服の描写をめぐって　平成二年一二月　『武庫川国文』第三六号
美文の時代的意義　平成三年三月　『日本文芸思潮論』（片野達郎編、桜楓社）
日本語研究の歴史と展望　平成三年五月　『日本語学』第一〇巻第五号
〝物尽し〟の語彙論　平成三年八月　『国語と国文学』第六八巻第八号

近代辞書の古語と文語
――『和英語林集成』と『日本大辞書』をめぐって――
書簡文の文章構造――近代の書簡文を例として――
衣服の言語文化史――日本語語彙史研究のために――
児童のことば――研究の現状と展望――
辞典の歴史をたどってみれば　国語辞典物語
漢語資料としての明治前期小型辞書
国語文字史研究の課題
日本語の感情を表すことば
上代における衣服の部位名をめぐって
近・現代語の語源
語彙史における類義語――漢語の問題を中心に――
日本語の未来を占う――語彙と漢字を中心に――
国語意味論研究の一視点――メタ言語との関わりから――
音義説と語源
甦る古語――〝あえか〟の場合
字史をめぐって
『たけくらべ』における平仮名の書体と字体
『和字正濫鈔』の片仮名字体について
感性動詞語句とは
〝目が点になる〟小考――ヤング・ジュニア小説を資料として――
国語資料としての『俗語辞海』
語彙と言語文化

平成三年八月
平成三年一〇月
平成三年一一月
平成四年二月
平成四年四月
平成四年七月
平成四年九月
平成五年一月
平成五年五月
平成五年六月
平成五年七月
平成五年一一月
平成五年一二月
平成六年二月
平成六年八月
平成六年一〇月
平成六年一〇月
平成七年一月
平成八年三月
平成八年四月
平成八年五月
平成八年九月

『大友信一博士還暦記念　辞書・外国資料による日本語研究』（和泉書院）
『国語論究　第三集　文章研究の新視点』（佐藤喜代治編、明治書院）
『日本学報』第二七輯（韓国日本学会）
『日本語学』第一一巻第二号
『ノーサイド』第二巻第四号
『国語語彙史の研究』一二（和泉書院）
『国語文字史の研究』一（和泉書院）
『日本語学』第一二巻第一号
『鶴久教授退官記念　国語学論集』（桜楓社）
『日本語学』第一二巻第七号
『国語語彙史の研究』一三（和泉書院）
『国文学　解釈と教材の研究』第三八巻第一二号
『国語学』第一七五集
『日本語論』第二巻第二号
『国語語彙史の研究』一四（和泉書院）
『国語文字史の研究』二（和泉書院）
『国語文字史の研究』二（和泉書院）
『語文』第六二・六三輯
『日本語学』第一五巻第三号
『言語学林1995-1996』（三省堂）
『国語語彙史の研究』一五（和泉書院）
『国文学　解釈と教材の研究』第四一巻第一一

言語文化のキーワード（編著）　平成八年九月　『国文学 解釈と教材の研究』第四一巻第一一号

意味記述とメタ言語　平成八年一〇月　『日本語学』第一五巻第一一号

国語語彙史における語源研究――〝くちばせ〟をめぐって――　平成八年一〇月　『国語語彙史の研究』一六（和泉書院）

古語の復活――〝心の臓〟の場合――　平成九年一月　『日本語研究諸領域の視点 下巻』（明治書院）

手紙の文法・手紙のスタイル　平成九年四月　『言語』第二六巻第一号

日本の辞書の歩み――古辞書から現代辞書まで――　平成九年六月　『新「ことば」シリーズ5 辞書』（文化庁（文化部）国語課編、大蔵省印刷局）

方言文化と言語行動　平成九年一〇月　『国文学 解釈と教材の研究』第四二巻第七号

語彙と文法――幼児の言語発達を例として――　平成一〇年四月　『日本語文法 体系と方法』（川端善明・仁田義雄編、ひつじ書房）

萬葉の花――花の言語文化史序説として――　平成一〇年六月　『萬葉集の世界とその展開』（佐藤武義編、白帝社）

〝逢魔が時〟の心　平成一〇年八月　『ことばから人間を』（吉田金彦編、昭和堂）

字義構造について　平成一〇年九月　『国語文字史の研究』四（和泉書院）

平安時代に消えた言葉　平成一〇年九月　『言語』第二七巻第九号

室町時代に消えた言葉　平成一〇年九月　『言語』第二七巻第九号

江戸時代に消えた言葉　平成一〇年九月　『言語』第二七巻第九号

明治時代に消えた言葉　平成一〇年九月　『言語』第二七巻第九号

「餅」の字体をめぐって　平成一〇年九月　『文化庁月報』三六〇号

今なぜ古典文法か　平成一〇年一〇月　『国文学 解釈と教材の研究』第四三巻第一一号

語彙と文法から見た待遇表現　平成一〇年一〇月　『国語語彙史の研究』一七（和泉書院）

日本語基本語語誌辞典から日本語言語文化史大辞典まで　平成一〇年一二月　『日本語学』第一七巻第一四号

日本語文字史　平成一〇年一二月
食の言語文化史から見た『新猿楽記』　平成一〇年一二月
現代に生きる枕詞――〝ぬばたまの〟をめぐって――　平成一一年三月
言語文化史から見た『明治字典』――国語辞書史序論として――　平成一一年一〇月
明治の〝歌〟と〝花〟　平成一二年三月
方言語彙論についての一視点　平成一二年三月
――『生活語彙の基礎的研究』を手がかりとして――
近代漢字字書の種々相――〝餅〟の字を例として――　平成一二年五月
〝水菓子〟の語誌　平成一二年六月
〝お菓子〟の語誌　平成一二年六月
文法論は何をめざすか（古典語、現代語）（編著）　平成一三年二月
「字体」「字形」「書体」「デザイン差」　平成一三年二月
〝髭尽し〟をめぐって　平成一三年三月

△学界時評・展望▽

39・40年における国語学界の展望　古代　昭和四一年六月
学界展望・国語（9月1日～30日）　昭和四五年一二月
昭和45・46年における国語学界の展望　語彙・意味（国語史）　昭和四七年六月
特集・昭和四十八年度国語国文学界の展望　国語学（近代語）　昭和四九年四月
学界時評・国語　昭和五三年四月～
昭和55・56年における国語学界の展望　語彙（史的研究）　昭和五七年六月
特集・平成八年（自1月～至12月）国語国文学界の展望(II)△国語学▽古代（語彙）　平成九年一一月

『日語日文学研究』三三（韓国日語日文学会）
『国語論究 第七集 中古語の研究』（佐藤喜代治編、明治書院）
『国語語彙史の研究』一八（和泉書院）
『語文』第七三輯
『国語語彙史の研究』一九（和泉書院）
『方言語彙論の方法』（室山敏昭編、和泉書院）
『国語文字史の研究』五（和泉書院）
『国語展望』第一〇六号
『日本語学』第一九巻第七号
『国語文学 解釈と教材の研究』第四六巻第二号
『人文学と情報処理』第三一号
『国語語彙史の研究』二〇（和泉書院）
『国語学』第六五集
『国文学 解釈と鑑賞』第三五巻第一四号
『国語学』第八九集
『文学・語学』第七一号
『国文学 解釈と教材の研究』第二三巻第五号～（毎年四・一〇月号、継続中）
『国語学』第一二九集
『文学・語学』第一五七号

〈書評・新刊紹介〉

新刊紹介　大友信一著『室町時代の国語音声の研究――中国資料による――』　昭和三八年一〇月　『文芸研究』第四五集

新刊紹介　北条忠雄著『上代東国方言の研究』　昭和四二年二月　『文芸研究』第五五集

〔書評〕国立国語研究所「日本言語地図」（第三集）について――文献資料との比較からみて――　昭和四五年三月　『国語学』第八〇集

わたしの読んだ本　徳川宗賢・宮島達夫編　類義語辞典　昭和四七年九月　『言語生活』第二五二号

〔書評〕小松英雄著『日本声調史論考』を読んで　昭和四八年一二月　『国語学』第九五集

《資料紹介》秋永一枝著『古今和歌集声点本の研究』資料篇　昭和四九年九月　『国語学』第九八集

〈紹介〉中田祝夫編『講座国語史2　音韻史・文字史』　昭和五〇年九月　『国語学』第一〇二集

〈紹介〉中田祝夫・小林祥次郎著『書言字考節用集研究並びに索引』（影印篇・索引篇）　昭和五一年三月　『国語学』第一〇四集

〔書評〕国立国語研究所著『現代新聞の漢字』　昭和五三年一二月　『国語学』第一一五集

〈紹介〉国語学会編『国語史資料集――図録と解説――』『国語学史資料集――図録と解説――』　昭和五四年九月　『国語学』第一一八集

書評　佐藤喜代治著『日本の漢語　その源流と変遷』　昭和五五年五月　『文芸研究』第九四集

〔書評・紹介〕国立国語研究所著『幼児の語彙能力』　昭和五六年六月　『国語学』第一二五集

〔書評〕富山民蔵著『語構成から見た日本書紀・古事記の語・語彙の比較研究』――古事記の性格に関する研究――（上・下）　昭和六〇年一二月　『国語学』第一四三集

〔書評〕安田章著『中世辞書論考』　昭和六二年三月　『国語学』第一四八集

書評・新刊紹介　柏谷嘉弘著『日本漢語の系譜　その摂取と表現』　平成元年三月　『岡大国文論稿』第一七号

〔書評〕西尾寅弥著『現代語彙の研究』　平成二年一二月　『国語学』第一六三集

書評・新刊紹介　下河部行輝著『続三島由紀夫の語彙研究序説――『煙草』から『山羊の首』の形容動詞をめぐって』　平成三年三月　『岡大国文論稿』第一九号

新刊紹介・馬渕和夫著『五十音図の話』　平成五年一一月　『漢文教室』第一七六号

〔書評〕犬飼隆著『上代文字言語の研究』　平成六年三月　『国語学』第一七六集
新刊自己紹介　幼児語彙の統合的発達の研究（前田紀代子と共著）　平成九年一月　『日本語学』第一六巻第一号
書評　井手至著『遊文録国語史篇一』　平成一〇年一月　『萬葉』第一六四号

〈その他〉

世尊寺本字鏡のアクセント（第五三回大会研究発表報告要旨）　昭和四一年三月　『言語研究』第四九号
昭和四十六年度春季国語学会大会（記録）　フォーラム　語彙の研究　昭和四六年一二月　『国語学』第八七集
（樺島忠夫・国広哲弥・森岡健二（司会）・渡辺実（記録）と共著）
ことばの研究前線（3）――前田富祺氏に聞く――　昭和五〇年三月　『言語生活』第二八二号
『国史大辞典』全一五巻（国史大辞典編集委員会編、項目執筆）　昭和五四年三月～平成九年四月　吉川弘文館
言語時評　〝見い出す〟と〝見出す〟　昭和五五年一月　『言語生活』第三三七号
言語時評　国語辞典の理想　昭和五五年二月　『言語生活』第三三八号
言語時評　国語辞書の現実　昭和五五年三月　『言語生活』第三三九号
言語時評　言語研究の課題　昭和五五年四月　『言語生活』第三四〇号
『国語学大辞典』（国語学会編、項目執筆）　昭和五五年九月　東京堂出版
『日本文法事典』（北原保雄・鈴木丹士郎・武田孝・増淵恒吉・山口佳紀編、第九章「文章」執筆）　昭和五六年一二月　有精堂
質問箱・「天ぷら」の語源について（回答）　昭和五七年二月　『言語』第一一巻第二号
研究グループ自己紹介・国語語彙史研究会　昭和五八年三月　『日本語学』第二巻第三号
『古語大辞典』（中田祝夫・和田利政・北原保雄編、語誌・項目執筆）　昭和五八年一二月　小学館
座談会　『国語学』と国語学会　昭和五九年三月　『国語学』第一三六集
（秋永一枝・北原保雄・飛田良文・徳川宗賢（司会）と共著）
座談会　これからの言語の教育を考える　昭和六三年二月　『大書の国語　豊かさと創造』六
（徳川宗賢・尾上圭介・野村雅昭と共著）

ことばの研究会自己紹介　国語語彙史研究会　平成六年一一月　『日本語学』第一三巻第一二号

手のひらの言語学――日常言語をめぐる22の疑問に答える・質問七　平成一一年五月　『言語』第二八巻第五号

（回答）

『日本国語大辞典　第二版』編集委員座談会　21世紀に引き継ぐ国語辞典を（林大・松井栄一・渡辺実・北原保雄と共著）　平成一二年八月　『本の窓』第二三巻第七号